

城下町の老舗



京極家にちなんだ銘菓は
絶妙な食感が魅力
寶月堂 **SKS P**

1917年に創業した老舗和菓子店。銘菓「六万石」は小豆あんを求肥で包み、最中種で挟んでいる。丸亀藩の石高から命名、表面には京極家の家紋の焼き印が。サクッとした最中種と求肥のもっちり感が絶妙な一品。1個130円。

◆丸亀市米屋町16 ☎0877-23-0300
◆営業時間/8:30~18:30(水曜のみ17:00まで)
◆休業日/1月1日

注目スポット



日本一のうちわどころを
支える技を披露
うちわの港ミュージアム **学び 体験 SKS P**

江戸時代、金毘羅参りの土産物として作られるようになり、国の伝統的工芸品に指定されている丸亀うちわに関する博物館。職人による実演コーナーや、うちわ貼りの体験教室もある。

◆丸亀市港町307-15 ☎0877-24-7055
◆開館時間/9:30~17:00(入館は16:30まで)
◆休館日/月曜(祝休日の場合は翌平日)、年末年始
◆入館料/無料(うちわ貼り体験は1本800円)

城周辺は平たんな道が多いので、JR丸亀駅前にあるレンタサイクルを利用するのも便利(1日200円~)。

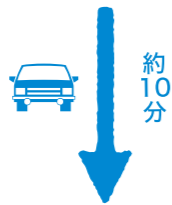


丸亀街道(中府の大鳥居)

【まるがめかいどう(なかふのおおとりい)】

丸亀港の太助燈籠から琴平町の高燈籠まで150丁(約12キロ)にわたる街道。丸亀城の南西にある中府の大鳥居は1871年に建てられ、金刀比羅宮を目指す旅人たちを見守ってきた。

◆丸亀市中府 ☎0877-22-0331
(一財)丸亀市観光協会



中津万象園

【なかつばんしょうえん】

1688年に丸亀藩中津別館として造られた大名庭園。広大な敷地には、藩主にゆかりのある近江の琵琶湖をかたどった池があり、近江八景にちなんで8つの島が配されている。白砂青松の松原を模した約1,500本の松や、傘を広げたような形状の一本松も楽しめる。

◆丸亀市中津町25-1 ☎0877-23-6326
◆開園時間9:30~17:00
◆休園日/水曜(祝休日の場合は営業)
◆入園料/高校生以上1,200円、小・中生500円
※丸亀美術館にも入館可能



骨付きの鶏もも肉を塩やコショウなどのスパイスで味付けし、丸ごとこんがり焼き上げた丸亀発祥のご当地グルメ「骨付鳥」。柔らかい肉質の若鳥と、かめばかむほど旨味が広がる親鳥があり、市内の約20店舗で提供されている。

◆(一財)丸亀市観光協会 ☎0877-22-0331



塩飽勤番所

【しわくきんばんじょ】

丸亀港からフェリーで約35分の本島は江戸時代、塩飽水軍の根拠地として栄えた。幕府の御用船方として自治を許され、勤番所で政務を執った。信長、秀吉、家康らの朱印状などを展示している。

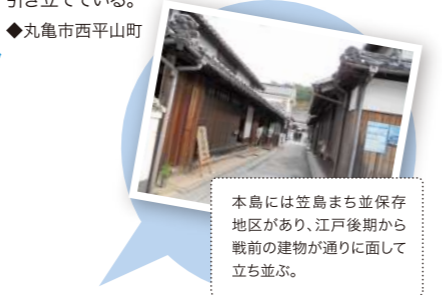
◆丸亀市本島町泊81 ☎0877-27-3540
◆開館時間/9:00~16:00 ◆休館日/月曜(祝休日の場合は翌平日)、12月29日~1月3日 ◆入館料/高校生以上200円、小・中生100円

太助燈籠

【たすけとうろう】

天保年間、海上の安全を願って建てられた銅製の燈籠。約4,000人の寄進者のうち、最高額を出した塩原太助の名が付けられた。現在も毎夜点灯し、港の夜の風情を引き立てている。

◆丸亀市西平山町



本島には笠島まち並保存地区があり、江戸後期から戦前の建物が通りに面して立ち並ぶ。

近くのみなと公園には、金毘羅船を模した遊具も。

石の美城の麓
街道の上陸地に
昔日の繁栄の名残

丸亀

香川県丸亀市



歴史

生駒親正、一正親子が1597年に築城するが、一国一城令により廃城に。生駒家に代わり新たに藩主となった山崎家治が1643年に再築したものの、その山崎家も断絶。新城主に就いた京極高和が60年に天守を完成させ、約200年間、京極家の城となった。

ゆかりの武将

京極高和 1619年~62年

安毛高政の長男として生まれるが、伯父の京極忠高が嫡子を残さず没したため養子となり、龍野藩を与えられる。1658年断絶し、山崎家の後を受け丸亀藩に転封となった。

START

城FILE 4

丸亀城

別名	龜山城
構造	平山城
天守	3層3階
築城者	生駒親正、一正
築城年	1597年
遺構	天守、石垣、大手一の門・二の門、玄関先御門、番所、長屋など



天守の最上階からは、丸亀港と街並みが一望できる

丸亀市一番丁
☎0877-22-0331 (一財)丸亀市観光協会
◆入城時間/9:00~16:30(入城は16:00まで)
◆休城日/無休 ◆入城料/高校生以上200円、小・中生100円
◆アクセス/瀬戸中央自動車道・高松自動車道「坂出」ICから約15分
※大雨・台風の影響により一部石垣が崩落しましたが天守、資料館、城内観光案内所を含め一般的なおコースは見学可能です

大手二の門に入った正面の石垣は、見せるための石垣として巨大な石で切り込み接ぎが採用されています。場所によってさまざまな積み方がされているので、じっくりご覧ください。



丸亀城内観光案内所 佐々木茂樹さん

丸亀市立資料館

【まるがめしつりょうかん】

藩政時代の丸亀城と歴代藩主に関する資料のほか、美術工芸品や民具など約3万3,000点を所蔵。数々の展示からは200年にわたる京極家の栄華をうかがい知ることができる。年に数回、企画展も開催している。

◆丸亀市一番丁(丸亀城内) ☎0877-22-5366
◆開館時間/9:30~16:30 ◆休館日/月曜、祝休日、年末年始 ◆入館料/無料(企画展は有料の場合あり)

海の玄関口へは、街道を北へ10分ほど。その昔、周辺は遊郭などが軒を連ねて夜な夜なにぎわったといひ、木造旅館のたたずまいが、往時の面影を伝える。船着き場「新堀港」に立つのは太助燈籠。旅人たちを迎えた温かな灯は、今も毎夜ともされ、港のシンボルとなっている。

城を西に出て少し進むと、丸亀街道に突き当たる。江戸時代に流行した「金毘羅参り」の道として四国に5本通る街道の一つ。日本各地から船に乗ってやって来た参拝者が、ここを通過して金刀比羅宮へと向かった。道沿いには上陸した港からの距離が刻まれた道標や丁石、石燈籠があらこちらに点在し、かつての繁栄ぶりがしのばれる。

「石の城」の異名の通り、そびえ立つ石垣は、石を割って積んだ打ち込み接ぎや切った積んだ切り込み接ぎ、自然石を積み上げた野面積みといった多様な様式が見どころ。とりわけ三の丸北側の出隅は、反り返って美しい曲線を描いており、「扇の勾配」と呼ばれている。

日本一の高さを誇る石垣の上に、小ぶりの木造天守が鎮座する。現存する12天守の中で最もコンパクトだが、唐破風や千鳥破風など意匠を凝らした姿は威厳に満ちている。



天守内には、急な階段が備え付けられている